

わが国における住居学教育の経緯に関する研究

— 家政学雑誌に現れた議論を通して —

近大豊岡短大 ○富山典子 京都府大 本多昭一

【目的】 家政系4年制大学・短期大学（住居学科以外）の住居学教育を考える時、衣食関係に比べ充実していないと言われていることから、本研究では、家政学雑誌における住居学教育をテーマにした論文等を軸に再検討を試み、歴史的推移と経緯をまとめ、現状を把握し、検討することでこれからの住居学教育のあり方を考察することを目的とした。

【方法】 1951年家政学雑誌第1巻1号創刊～第46巻12号の全368冊にわたって住居学教育をテーマにした論文等を調査した。

【結果】 家政学雑誌に掲載された住居学教育に関する記事を調査したところ、全体で20数編と以外に少ないが、ほぼまんべんなく各時期に報告があり、歴史的推移からは社会的環境の移り変わりと共に住居学教育の内容にも変化が認められた。又、その経緯からは様々な問題点が浮かび上がり、中でも教職（家庭科）につく学生には住居学の知識が十分ではないことから、教師の苦手意識から住分野を教えることを怠る傾向があり、これらの背景が家庭科教育における「住」教育に影響を及ぼし、住居学に関心を示さない学生が多いということにつながっている。この悪循環を繰り返しているという現状が認められた。これらを打開するためには、授業時間・単位数の増加も必要であるが、まず住居学教育（授業）の内容を改善することが急務であると考えられる。